

令和元年度第1回白石市総合教育会議 会議録

- 1 招集日時 令和2年1月23日(木) 午前10時
- 2 招集場所 白石市役所 4階 大会議室
- 3 出席委員 白石市長 山田裕一、教育委員 佐藤敏義、教育委員 佐藤よし美、  
教育委員 岡崎美弥子、教育委員 小室秀一
- 4 説明のため出席した者  
宮城教育大学教授 佐藤哲也、第一幼稚園保護者代表 会長 佐藤智美、  
副会長 鈴木望、第二幼稚園保護者代表 会長 佐藤宏子、副会長 古山まどか  
手をつなぐ育成会 副会長 井上剛、第一幼稚園を残す会 疋田秀應、齋典子、  
小片琴子
- 5 欠席者 弁護士 村上敏郎
- 6 事務局出席者  
教育委員会事務局  
教育長 半沢芳典  
学校管理課 課長 小室英明 上席参事 高橋大介 課長補佐 相原宏一  
課長補佐 佐藤哲生 係長 後藤順子 主査 櫻井知  
総務部 総務部長 山家英男  
保健福祉部 子ども家庭課 課長 佐藤純哉 係長 佐久間詳子
- 7 開会時刻 午前10時
- 8 協議事項 本市における幼児教育の充実について
- 9 閉会時刻 午後12時

(午前10時00分開会)

小室課長 定刻になりましたので、ただいまから令和元年度第1回白石市総合教育会議を始めさせていただきます。私は学校管理課長の小室と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

当会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に規定されております。地方公共団体の長と教育委員会との協議並びに調整の場という位置づけになっております。今回は、関係者並びに学識経験者の皆様に意見聴取者としてご出席いただいでるの会議となります。また、この会議は物事を決定する場ではなく、意見調整の場でございます。

なお、本日の、会議の時間は概ね2時間ということで予定しており、時間がまいりましたら終了となります。

本日出席を予定しておりました弁護士村上先生につきましては急きょ体調不良のため欠席となりました。

それでは、山田市長よりご挨拶を申し上げます。

山田市長

皆様おはようございます。総合教育会議開催に当たりまして、主催者として一言ご挨拶を申し上げます。

本日もご参会いただいた皆様におかれましては、日頃より本市の教育行政について、様々な角度からご意見等をいただくとともに、力強いご支援をいただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

さて、本市においては、少子化や保育ニーズの変化等により、市立幼稚園の園児数が減少し定員の5割を割り込む状況となっております。このような中、幼児教育のさらなる充実を図っていくために、現在2園ある市立幼稚園のうち、第一幼稚園を休園する決定をいたしました。

しかしながら、令和元年11月15日付けで、白石市議会議長あてに、「白石第一幼稚園を残す会」様から「白石第一幼稚園休園の白紙撤回並びに次年度 年少組園児募集の即時再開に関する請願書」が提出され、第438回白石市議会定例会において可決されたものであります。

市としては、請願書採択という市議会の判断を真摯に受け止め、計画を凍結し今後、本日も開催しております「白石市総合教育会議」を数回開催しご意見をいただくとともに、教育委員会での協議を踏まえ、適切に判断していくことと、いたしたところであります。

なお、総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき教育委員会と首長をもって構成するとされており、さらに、必要と認めるときは、関係者や学識経験者からご意見を聴くことができるとされております。

本日の会議の大きなテーマは、「本市における幼児教育の充実について」ということとでございます。

そこで、本日は、大変お忙しい中、幼児教育の専門家として宮城教育大学の佐藤教授様並びに、関係者として、第一幼稚園及び第二幼稚園の保護者会代表様、「白石第一幼稚園を残す会」様及び「手をつなぐ育成会」様からご推薦をいただいた皆様にご出席いただきました。誠にありがとうございます。

幼児教育の充実は、本市の将来を担う上で非常に重要なこととあります。

どうか、皆様の忌憚のないご意見をお聴かせいただければと考えております。

それでは本日の会議どうぞよろしくお願いいたします。

## 議長選出

小室課長

それでは会議に入ります。

議長選出ですが「白石市総合教育会議運営要綱」第3条の規定により市長が議長となり、会議の進行をすることになっておりますので、ここからの進行は山田市長にお願いいたします。

議長

それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、発言される場合には挙手をいただき、参加者並びに傍聴の方々には不規則な発言等はお慎みいただくようお願いいたします。「白石市総合教育会議運営要綱」に

基づき「会議の公正が害されるおそれがあると認められるとき、その他公益上必要があると認められるとき」は、会議を秘密会とすることがございますので、よろしくご協力をお願いいたします。

本日の会議のテーマは、「本市における幼児教育の充実について」ということでございますが、初めに、出席者の皆様から自己紹介をお願いいたします。

まず、総合教育会議のメンバー（構成員）から自己紹介、お名前のみで結構ですので、お願いいたします。まず私から自己紹介させていただきます。

白石市長山田でございます。皆様お忙しいところお集りいただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

半沢教育長 教育長の半沢です。よろしくお願いいたします。

佐藤（敏）委員 教育委員の佐藤敏義です。よろしくお願いいたします。

佐藤（よ）委員 教育委員の佐藤よし美です。よろしくお願いいたします。

岡崎委員 教育委員の岡崎美弥子です。よろしくお願いいたします。

小室委員 教育委員の小室秀一です。よろしくお願いいたします。

山田市長 続きまして参加者、意見聴取者からの自己紹介及び各所属グループ毎にそれぞれの立場で、本日のテーマについてのご意見をお願いしたいと思います。時間に限りがありますので、各グループ3分程度でお願いできればと思います。

初めに法律の専門家の村上先生からお話を伺うところでしたが体調不良のため欠席となりました。まず宮城教育大学佐藤教授からお願いいたします。

佐藤教授 宮城教育大学の佐藤と申します。私は幼児教育学を専門にしています。2011年の3月1日に宮城教育大学に赴任しまして、10回目の冬を迎えました。前職は、1995年4月に国立の兵庫教育大学に着任しました。幼児教育の仕事をして25年しております。宝塚市の公立幼稚園完全民営化問題では審議会の委員で、公立幼稚園を擁護する立場にありました。現在も宝塚市では公立幼稚園は残っております。もう一つ大阪市では橋下市長が公立幼稚園60園を完全民営化するのだというときに審議会（公聴会）を立ち上げまして、私は宮城教育大学に着任していましたが、大阪の公立幼稚園の園の会、公立幼稚園のPTAの連合会から頼まれ公立幼稚園を擁する側で2時間の会議を2回したことがあります。市長が途中でタレントに戻ったので大阪市では公立幼稚園は残っております。私は教職員組合（日教組）です。幼児教育の共同研究者になっており、毎年広島で行われる会合で共同研究者として参加しています。教職員組合ですので公立幼稚園の先生しか来ませんが、そこで全国の状況、動向を伺っております。全国で公立幼稚園は非常に大変な状況です。私自身の考えは完全に民営化する場合は反対する立場にあります。統廃合、休園の場合はケースが違います。限られた市の財政の中で、少子化というのっぴきならない状況の中で一人一人の幼児の教育、生活の質を上げるそして、そのために公立幼稚園が有効に地域の中で機能し始める、そのためには限られた人と金と今までの実績をどう未来に向かって生かしていくのか。そういう視点が大事だと思っています。そういった観点からこの会に関わっていただけたらと思います。

第一幼稚園会長 白石市第一幼稚園保護者会会長の佐藤智美です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

第一幼稚園副会長 第一幼稚園保護者会副会長の鈴木望です。よろしくお願いいたします。

第一幼稚園会長 本日はお話を聞きに来ました。それぞれの立場で話があると思います。私たちは当事者、休園になる予定の保護です。いろいろな意見がある中で、3分で思いを述べるのは難しいので会の中で述べさせていただきたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

第二幼稚園会長 第二幼稚園保護者会会長の佐藤宏子です。よろしくお願いいたします。

第二幼稚園副会長 第二幼稚園保護者会副会長の古山まどかです。よろしくお願いいたします。

第二幼稚園会長 私たちは、幼稚園が残る方ですが、8月に話をいただきここで休園の凍結ということで、保護者の皆さんは戸惑っています。保護者会では受け入れるということで話を進めていた矢先でした。この先どうなるか不安を抱えています。一番に考えてほしいのは、今通っている、これから通うであろう子どもたちのこと、保護者のこと、そのことを第一に考えて議論していただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

疋田氏 第一幼稚園を残す会発起人で代表の疋田秀應です。よろしくお願いいたします。始める前に、参加者に謝礼が出るということでしたが、水道料金を値上げしたりスパッシュランドを閉鎖したりと、市にお金がないと言いながらこの会にお金が出るのはおかしいのでは、一言言わせていただきます。

今回の会議が開かれる経緯として8月20日に第一幼稚園の説明会がありましてその後第一幼稚園を残してほしい人達が署名活動を行いました。2か月余りで4500名以上の署名が集まりました。市に請願書を出して市議会で議論し採択となりました。凍結となりましたが事実上の休園の継続ということがおかしいと感じています。今回聞いておきたいところです。凍結とは休園の中断と回答をいただいています。実際のところ次年度の年少組の園児募集は限定的でしか行われていない。新規で申し込みがあっても年少組は第二幼稚園を案内される状態です。これは凍結、判断の中断ということでは矛盾していると思います。今回の経緯としてなぜここまで第一幼稚園、第二幼稚園の人も振り回されているのか、大本の原因を突き詰めて質問していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

齋氏 齋と申します。私は第一幼稚園と第二幼稚園に勤務して子供たちと遊んでいました。どちらの幼稚園も生まれて初めての子供たちが集団生活の中で直接体験を大事にしながらのびのびと遊んでいる、今も昔も変わらない幼稚園だと思っています。私にとってはどちらも大好きな場所です。この度の問題が起きどちらかを選ぶというのは心傷んでどちらもなくなってしまうという思いでいっぱいでした。でも子育てに対する家庭環境、社会のニーズ、子供の減少とかが関わって一つになるのはやむを得ないのかなと思っております。11月ごろの市の資料を見て、背景と休園というところを読みました。そこで自分の経験から背景と理由がイコールになりませんでした。その思いは会の中で述べさせていただきます。そこで疋田さんから話を聞いて、「あ、これだよな、大事にしているよな」という思いが伝わったので署名させていただきました。私は会には入っていませんが、残す会のメンバーを見ると教諭をしていた時に協力していただいた方の名が連なっていたので園を一つにするにせよ二つにするにせよ、これからの幼児教育を大切に考えていかなければいけないという思いに駆られてこの会に出席させていただきました。白石市は財政も子供の数も限られています。保育園を含めてこれからどんな幼児教育をしていくのか当

局がどう考え私たちがどう関わっていくのか、この会で分かっていきたいという思いです。よろしく願いいたします。

山田市長  
小片氏

各グループ3分以内でお願いしていますので小片様少し短めにお願いします。  
私は白石幼稚園時代に採用されて、第二幼稚園ができるまで勤務して、第一幼稚園の園舎ができたときは第一幼稚園の勤務でした。28年間貴重な経験をさせていただき白石の幼児教育に関わってこの会に出席させていただくことを非常にありがたく思っています。力説したいことは若いお父さんお母さん方は今子育てに頑張っています。その応援をしたいという気持ち、幼児がのびのびとこれからの白石市を担っていく充実していくようこの会に関わらせていただければと思います。最後になりましたが小片琴子と申します。

井上副会長

白石市手をつなぐ育成会副会長の井上剛と申します。本日会長が所用で代理出席となります。手をつなぐ育成会は、白石市の幼児教育、義務教育、高等学校、本人がお墓に入るまで全部網羅している会です。その中の位置づけとして、私たちは白石市全域の子供たちを見ている。本日の会で議論する、幼稚園を一つにするという立場ではございません。究極的にはどちらになってもいいという立場です。ですが、会長が是非言ってほしいということがありましたのでご説明します。統合する際に一人一人に手をかけてもらえる状況というのが今後も続くかどうか、定員に満たない状況で職員数が少ない現状で頑張っていますが、それが統合されて先生方がどのくらい増えて、子供たちに目をかける時間があるかということが、発達障害が増えている状況の中で、いろいろお手数をかけると思いますが、その時にその子供たちが落ち着いて生活できる空間がどのくらい保証されるのかが私たちにとって大切にしたいところです。その点について、後程意見を述べさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

山田市長

ありがとうございます。この会は本来教育委員と市長が市のさまざまな教育行政について議論を深める会です。本日は多くの会の皆様から出席いただいております。また当市の課題として待機児童が昨年より急激に増えているということもあり、園に入れたくても入れることができない待機児童の保護者の方からもお声をいただいております。子ども家庭課で皆さんの声をまとめましたのでお願いします。

佐藤課長

子ども家庭課長の佐藤です。よろしくお願いします。待機児童保護者の方からいただきましたご意見を紹介いたします。

・台風で被害を受け、引っ越しもしたし、自動車も浸水被害のため買い替えが必要となっているため、働かないと生活が成り立たない。兄弟別々の園でも構わないので、どこかの保育園に入れてほしい。

・自営業で子どもの面倒をみながら仕事をしている。子どもが気になり集中できないので、預けてしっかり仕事をしたい。

・認可外保育施設に預けて仕事をしている。自営業だから家で子供の面倒をみることが出来ると思われるかもしれないが、そうではないことをもっと考慮してほしい。

・ひとり親なので働かないと生活できない。送迎等手伝ってくれる人がいないので、なんとか近くの園を利用したい。

・保育園に入れないので育休を延長しているが、これ以上休むと解雇になるかもしれない。なんとか入所させてほしい。

・保育園に入れないと働けないのに、働いてないと入所の優先順位が低い。悪循環だと思う。

・保育園に入れない場合は幼稚園も検討するが、幼稚園では預けられる時間が短いので満足に働くことが出来ない。幼稚園でももっと預かりを充実してほしい。

・家族が育児に協力的でないため家事も育児も母一人で行っている状況。肉体的にも精神的にも限界にきている。どうか保育園に入れてほしい。

というご意見をいただいております。

山田市長

ありがとうございます。先ほど自己紹介いただきながらそれぞれの立場での考えをお話いただいた方もいます。皆様から参加者の方へご質問があればここで受けましたと思います。

疋田氏

そもそも今回の第一、第二幼稚園を休園するという決定が教育委員会の会議をもってなされたという認識でいいのでしょうか。

半沢教育長

教育委員会は議決案件とそのほかの案件がありますが、廃園の場合は設置条例等を変更しなければならないことから議決案件という扱いになります。休園の場合は法的に議決案件ではございません。したがって議決をしたという内容ではございませんが、複数回教育委員会の定例会の場において、この問題について教育委員さんのご意見もいただきながら判断してきました。

疋田氏

そうであれば教育委員の皆さんに伺いたいのですが、第一幼稚園を残す、第二幼稚園を残すというような話し合いは行われたのですか。それとも今回のこの資料の幼児教育の現状についてというもののみで話し合いが行われたのか、それともきちんと両園を比較するような資料が添付されて、それをもとに第二幼稚園を残し第一幼稚園を休園すると選んだのか、お聞かせください。

佐藤（敏）委員

経過について説明いたします。第一幼稚園は、2階建てで避難に関する問題が大きという説明を受けました。一番としては数、半数を割っているということです。その経緯の中で各委員の方から意見が出ました。私は長く委員をしています、学校統合問題では齋川小などかなりの時間をかけてやってきました。3年かけて地域の子供、保護者、地域の役職の方と話し合いをしてきました。そういう意味では私以外の委員からも性急しすぎないかという意見が出ました。最終的に出されたのが両園とも半数を割っている、このままでは市の経営として今後難しくなるというところで委員会として最終的に同意しました。

疋田氏

教育委員の定例会の開示請求をしまして4、5、8、9月と今回の件でいろいろ話がなされていますが、会議録の中で一言も第一幼稚園を残す、第二幼稚園を残すための説明が記載されていません。白石市の幼児教育の現状について待機児童数がある、定員が減っている、その資料のみで検討されているようにしか思えないのですが、第一幼稚園と第二幼稚園のここがダメでという、比較検討する資料が議事録に載っていないのでしょうか。比較検討されていないから、今回署名をした経緯でもあります。きちんと話し合われたうえで保護者に資料が示されればここまでならなかったのです。委員として齋川小の経験があるなら休園の決定が半年後にあるというのは正常な状態なのでしょうか。8月20日は第一幼稚園が半年後に閉まる、その9日後に覆り1年後に閉まるという決定をしています。議事録にも書いてあります。ですがその時に齋川小学校ではこれだけの時間をかけています、という検討は

しなかったのでしょうか。

小室委員

教育委員会議で話し合われたことについては議事録のとおりです。別件ですがこれからこの会議は何回か開かれます。両園の比較等についてもこれから先は話される場があると思うので、今日はせっかく専門家もいらしているので質問してよろしいでしょうか。幼児教育が無償化になりました。保護者としては、保育園に預ける、幼稚園に預けるという選択ができるわけですが、そのような時代に幼稚園教育の意義、幼稚園がどうあるべきか専門の立場から考えをお聞きしたいと思います。

佐藤教授

幼稚園は学校であるということです。学級があります、学級には必ず学級担任がいます。担任は自分のクラスの子供たちの今日一日、一週間、一年間の生活と成長に責任を持ちます。責任をもって教育計画を立て、遊びを通じた総合的な思慮、難しいのですが、小学校教育に繋がる子供を守り育てる保育という営みに従事するわけです。幼稚園は就学前の子供たち、子供たちを育てる保護者にとっては大事な教育の選択肢だと思っています。一方で保育所、認定こども園があります。認定こども園はやり方を間違えると、例えば幼稚園が幼稚園型の認定こども園になりたい、保育所と一緒にって幼保連携型の認定こども園になるのですが、認定こども園という看板を掲げた保育所なのです。保育所が悪いというわけではないのです。幼稚園と保育所と認定こども園の一番の違いは長時間保育なので担任がシフト制なのです。極端な場合、担任が一日のうち3回くらい変わります。あるいは担任も労働者ですので、労働基準法に守られています。休日出勤すれば翌週は代休を取ります。保育所認定こども園に行くと、今日の先生という札があります。明日の先生も違います。保育所の場合は基本的には児童福祉施設ですので保護者から委託を受けて保護者の代わりに子供を守り育てるミッションを専門家である保育士が担っていく。ただし、勤務交代制ですので先ほどの幼稚園教育が取り組んでいるような、一人の担任が責任をもって、見通しを持ちながら子供と一緒に作り上げていくというような教育活動は残念ながら難しいです。保育士さんが「うちは幼児教育をきちんとやっています」という幼児教育と、幼稚園の教諭が学級担任を機能させながらしていく幼児教育とでは質が全然違います。どちらも与えられている条件の中で精いっぱい仕事をしていることは確かです。リスペクトされるべきです。そういうように内容が違うなかで、本当に豊かな社会というのは、それらか選択肢として用意されているということが大事なところです。そしてもう一つ大きな違いは、幼稚園教育の場合は、特に公立幼稚園の場合は、教育公務員特例法によって教員に研究と修養すなわち研修の権利が与えられています。公立幼稚園の教諭の場合は、教育の質を高めるために研修が与えられている。保育所の場合は、研修はあるのですがどちらかという養護の面に傾いているのです。子供がけがをした場合どうするのか、虐待が疑われる場合どうするのか。発達障害の場合はどう対応したら子供が落ち着くのか。あまり教育の研修が保育所ではないのが現状です。私立幼稚園の場合は、幼稚園同士が連合しながら研修会をしています。仙南地域でもしていますが、仏教系、キリスト教系、自由保育などカラーがありますので、研修といっても自分たちの保育を公開して忌憚のない意見を交わしながらお互い高めあうのは難しいです。公立幼稚園が公的な幼稚園として私立幼稚園、保育所、認定こども園の方々に一緒に研修できる機会を提供する、それが地域における幼児教育のセンターとなる。公立はそう

いう機能を果たしていくので重要です。幼稚園は基本4時間、1年間で39週を下らないこととなっている、これは家庭と幼稚園が車の両輪のようになり子供を育てるといふ考え方です。家庭でできることは幼稚園でやらない。幼稚園でできないことは家庭でやる。保育所は、幼稚園教育のような幼児教育を午前中やって、給食を食べ昼寝をし、身支度を整え、そのあとは幼稚園に通っている子供たちが家庭でしているようにおやつを食べたり、ゆっくり過ごして保護者が迎えに来るまで待っている。そういう意味で保育所も長時間いるが幼児教育をやっている。白石の場合は公立幼稚園と保育所の人事交流を行っているので、幼稚園教育のノウハウが保育所にも伝わり、質が高い幼児教育が行われていると思います。

第一幼稚園会長 昨年から幼稚園では一時預かりをしています。標準4時間ということですが、保護者の要望として長期休暇中も取り入れてほしい。待機児童の問題もありますが、預ける先がなければ働くこともできない。幼稚園のこれからの在り方を変えていかなければ、待機児童はなくなる。幼稚園教育としては可能なのでしょうか。

佐藤教授 我が国の幼稚園教育の理論と実践の基礎を作った人で倉橋惣三という人がいます。今のお茶の水女子大学の心理学者でした。「幼稚園真諦」という本を書いています。その中で大切なのは子供たちが帰った後にしっかりその日の保育を振り返り、明日の保育の準備をする。幼児の自主性や主体性に対して、先生が「あれをしなさい」と言ってしまうと芽を摘んでしまう。今日は人生でたった一度しかないわけです。今日をいかに充実して過ごすのか、あれやりたいという選択の自由を、環境を用意しておくわけです。環境の中に先生の狙いや願いを仕込んでおき、遊びが教育になるわけです。子供が帰った後に一人一人の子供のことを思い出し保育記録を書きます。幼稚園教諭は子供が帰った後が本番みたいなのところもあります。倉橋惣三もそこが勝負だと言っています。環境を通して間接指導をする、幼児教育の重要な部分です。私は、預かり保育はあまり賛成ではありません。そういう時間を幼稚園教諭から奪ってしまうからです。預かり保育をするのであれば、そのためのパートタイマーを雇うべきです。本来の学級担任のミッションを果たすことができるよう、保育の準備をあてがわなければいけません。保育所はそれができません。子供たちが帰った後の時間があるからこそ幼稚園教育の質が保たれているわけです。預かり保育ものっぴきならない状況で担任をしながらしているのでしょうか。

半沢教育長 本市は昨年の4月から待機児童の問題もあり、一方で幼稚園は定員を大きく割っていることもあり、収容できるのではないかと。保護者のニーズに応えようと始めました。人員は、新たに雇用し、夕方まで見てもらっています。もっと早くから、遅くまで預かれないかという声もありますので、幼稚園教諭の仕事を増やすのではなく、新たな設備も必要になりますので、それらを勘案し、今回の様になりました。

佐藤教授 夏休み、冬休みの件ですが、その時も先生方にとって重要な研修の機会ですので、そこで普段通りの預かり保育になると働き方が保育士と同じになります。人を確保するにはお金がかかります。子供子育て支援、幼児教育の無償化の中で一番の問題は国が掲げたのに国は面倒を見てくれません。無償化の財源は市町村で何とかしろと。国はお金をばらまいておきながら責任を市町村に負わせています。本来使うべきところに使えない、無償化のために使わなければいけない。結果的に保育の現場を困窮させている。私の理解が間違っているようであれば行政側から指摘してくだ



さい。

佐藤課長

幼児教育無償化について昨年10月1日よりスタートしています。3歳児から5歳時までの子が基本的に無償になっています。財源は公立では100%市の負担です。

小室委員

今保護者の方から要望が出ましたが、この機会に他にも要望があれば教えてください。

第一幼稚園会長

本来は長期休暇もお願いしたい。子どもが一人だけの人、兄弟がいる人もいる。上の子が小学生で児童館に行き、下の子は幼稚園に行ってる。長期休暇になると下の子を預ける先がない。なかなか仕事に就けないという方も結構いる。100%市の財源になると現場の保護者としても難しいのかなど。もし休園になり一つの園になることにより先生方が増えるようであれば、日々の時間帯を延ばしていただきたい。待機児童の解消に努めていただければ、今後出生数が少ない中で、人口増加に一役担っていただければ休園を考えてもよいです。

山田市長

人口の話が出ましたが、事前にお配りしている資料の中に「子どもの数の資料」をお持ちでしょうか。その資料について教育委員会より説明をお願いします。

高橋上席参事

こんにちは、学校管理課高橋です。お手元のグラフの資料をご覧ください。

私からは、本市における幼児教育の現状と課題についてご説明いたします。

お手元の「令和元年度 第1回総合教育会議資料」をご覧ください。

資料の1は、平成21年度から平成30年度までの10年間における本市の出生数の推移です。平成21年度253人でしたが、平成30年度には171人となり、この10年間で30%以上減少していることとなります。全国的な傾向と同様に、このグラフからも本市における少子化はさらに進んでいくことが予想されます。次に2をご覧ください。本市の課題として、待機児童の問題がございます。少子化傾向にある中ではありますが、12月1日現在46名の待機児童がいる状況です。共働きの子育て世帯のためにも、本市としての喫緊の課題の一つとなっております。

最後に市立幼稚園の状況です。3は幼稚園の定員に対する在籍率となっております。1月20日現在の在籍率は、白石市第一幼稚園で44%、白石市第二幼稚園で41%となっております。

また、裏面の4は、白石市立幼稚園のこの10年間の在籍数の推移となっております。本市の出生数の減少に伴い、市立幼稚園の在籍数も全体として減少している状況となっております。

以上、加速する少子化とそれに伴う市立幼稚園の在籍数の減少の中、いかにして幼児教育を充実させていくか、そして、待機児童問題にどのように対応していくのが、大きな課題となっております。私からのご説明は以上でございます。

半沢教育長

背景について現状を説明しましたが、その中で、教育委員会としてさらに幼児教育を充実させるために検討した結果が、お示しした案であります。先ほど佐藤会長からありました、延長保育の件についても検討しています。教育にお金の話はあまり馴染みませんが、現実問題、幼児教育の無償化であっても公立の場合は100%自治体負担です。延長保育をさらに延長する場合は、現在両園に支援員を2名配置していますが、さらに増員が必要になります。時間が短いこと、夏休み中のこともあり、定員の15名に至っていません。幼稚園は学校教育法上、学校に指定されてい

ます。学期を決めなくてははいけません。研修の場も配慮しなければなりません。今後保護者のニーズを伺いながら、学校教育法上の幼稚園の狙いを達成しつつ付加価値を付けられないかと。長期休業中の一定期間預かれないかと。ただ2園のままでは現実的に厳しいこともご理解ください。昼食の提供については現状のままでは外部委託をしても安全面から、難しいという判断です。さらに市民、保護者に選ばれる幼稚園を目指していきたいと思っています。

齋氏

佐藤先生の話聞いて幼稚園教育を懐かしく思い出しました。今も変わらないのだなと思いました。白石は宮城県で2番目に公立幼稚園ができ、幼児教育は大事だと思っています。園が一つになるという話を聞き、ニーズ的にも財政的にも仕方ないと思いました。第一幼稚園が休園になるという話を聞いた時も、白石は子供たちのために何かをするために休園にするのではと思いました。そんな期待を持ちました。広報しろいしと一緒に配布された背景を読み当たり前だと思いました。私自身、園が一つになるのは仕方ないと思います。休園理由を見て、第二幼稚園の裏は遊べる場所がありません。面積で見れば両園とも変わらないと思います。就学先の比較では、二小はクラスも増えているし仕方ないと思いました。園舎構造については、当初は2階建てに反対でしたが、後にプラスに考え保育をしてきました。安全性の比較では、宮城県沖地震の際は二小学区の実家のピアノが倒れました。一小学区の自宅ではこけしが倒れました。それくらいの違いがあります。もし保育時間中に地震が発生したら安全面で第一幼稚園かなと思います。不審者対策では市では防犯カメラを設置してくれた。安全面ではすぐに対応してくれている。第一幼稚園では図書館、児童館、一小的の先生方と防犯の話をしました。第二幼稚園は中学校も遠いし、住宅地ですので安全性の比較がされていないのはなぜかなと思いました。

第二幼稚園副会長

私自身の下の子が来年から幼稚園に通う年齢です。自分も来年から仕事をしたいと思っています。でも実際延長保育だけでは長期休暇のときもやっていなければまったく意味がないです。採用されても子供が休みなので言えば使ってもらえない。保育園も入れない、ひかり幼稚園では制服等をそろえるのにお金がかかる。制服も上の子があるので同じ幼稚園に行けたらと思います。

小片氏

待機児童の要望が出されたときに齋さんの意見にプラスするようなことですが発言させてください。防災の面ですが、私も退職して40年近くなりますが両園とも先生方に守られていてありがたいと思っている。2階建てを立てる際、市では土地がないので安全面について考えましょうということで東側に階段を付けました。今まで事故がなかったのは、子供がいない時間帯に災害が起きたということです。第一幼稚園を休園にするというのは苦渋の判断だと思いますがもう一度考えてほしい。白中に雷が落ちたときは第二幼稚園のガラスが壊れるくらいでした。その時も子供がいない時間帯でした。第二幼稚園のすぐ近くで火事があった時も子供がいない時間帯でした。当時南側に避難経路はなかった。台風19号時七ヶ宿ダムの放流がなくてよかった。一つの幼稚園にするのであればもう少し納得のいく決め方をしていたいただきたいです。

山田市長

いろいろな意見の中で、2階建てをプラスにするように気を付けて幼児教育を心掛けてきたという発言がありました。専門家の方からはいかがでしょうか。

佐藤教授

与えられた条件の中で最善を尽くす、子供が生活していく環境の中でいろいろ学ぶ

ことは幼児教育の基本です。実は階段は幼児期と小学校の間の接続と言われている。生活に適応するという意味の接続で、小学校には階段があり幼稚園にはない。仙台ではエレベータなどを使うので階段を上る経験がない。都会では園外保育で階段を上る経験をしているところもあります。公立の幼稚園は平屋建てが一般的です。2階建てになった背景はベビーブームです。園児が増えることが予想された。設置基準で2階、必要に応じてそれ以上も認められることがある。実際も3階建ての幼稚園もある。理想を言えばユニバーサルデザイン、心身に障害を持っている方にも合理的な配慮を考えると平屋がベターだと私は思っています。

大阪の池田市では公立幼稚園を10園から4園に統廃合した。園舎は上に建てました。園庭が狭くなり自由遊びの時間をローテーション化しました。

山田市長 今の佐藤教授の話聞いてみて、手をつなぐ育成会の井上さん何かございませんか。

井上氏 二階建てと平屋建てという問題ですが、育成会としては障害を持つお子さんのことを中心に考えたいところです。白石市の現状としてこれから定員の140名にはならないです。第一幼稚園にも空き教室が出ると思います。合理的配慮の中で2階に上れない子については1階の教室を利用することは可能だと考えました。先ほど出た七ヶ宿ダムの件ですが、今回は貯水量が半分で十分に調節機能を果たしていた。水害では白石川沿線は、水害の恐れはあるので第一幼稚園は弱いのかなと思います。地震に関しては第二幼稚園が弱いかなと思います。それぞれメリット、デメリットがあります。今回の資料ではそれが比較できない資料ですので次回の会議までに示していただくことでもう少し具体的に話を進めることができると思います。災害だけでなくいろいろなことも含め判断できると思います。児童数の減少は数値で見えますが、140名定員の時の職員数とクラスの内訳がどういう状態であるのか、障害児を持つ親として非常に関わりのあることです。統合した際、員数がどのくらいになるかを資料に入れてもらいたい。

山田市長 災害が議題となりましたが、東日本大震災の両園の状況が判断材料、参考になると思います。被害状況をお教えてください。

小室課長 第一幼稚園は外壁のALC盤に亀裂が入り、一部滑落しました。第二幼稚園は、一部液状化が発生しました。各教室の床下に一部空洞ができ床に亀裂が発生しました。南側の民地のコンクリート部分の表面に亀裂が入りました。

山田市長 被害後の対応もお教えてください。

小室課長 第一幼稚園は外壁の交換修理をしました。第二幼稚園は、床にウレタン注入し平均を保ちつつ強化工事をしました。南側は地権者の方が岩盤にアンカーを打ち込み工事を行ってもらいました。

山田市長 雷、火事、大雨の際は園児がいなくて大惨事にはいたらなかったという話が出ました。予測できない災害についての対応はその都度になります。現段階での比較は難しいのかなと思います。大雨に関しては天気予報の精度も上がりました。早めの対策もできると思います。大雨の際はいつまでも園にとどまっていることは考えづらいと思います。そのほか皆さんから何かございませんか。

疋田氏 様々な災害での予見可能性、その施設に何があるか、地盤の固さについてなぜ比較しないのか。比較する資料も足りない。教育委員会ではそういう資料をそろえてい

るのに私たちに示されたのは先ほどに資料しかない。資料不足が今回のことになった。敷地面積は第二幼稚園が広いが、さほど差がない。地震では第二幼稚園の方が、被害が大きかった。白石川が冠水したとき、第一小学校は冠水するでしょう。その際第一幼稚園、児童館、図書館は避難場所に適切かどうか。白中が冠水した際、第二小学校もどうなるか分からない。公共施設の近さ、避難経路はどうなのか親が迎えに行く際の道路の広さ、駐車場の広さ等を見て比較検討できる。今回はそのような資料がなく第一幼稚園を休園しようとした。それに対して疑問を持っている。第二幼稚園を残すことありきで考えた資料しかない。いかがでしょうか。

半沢教育長

今のご質問は意図的に情報をとということでしたが、そのようなことはございません。資料の出す出さないの選定はしていません。先ほど井上さんから職員数がどうなるかという質問ができました。資料を出すことはやぶさかではございません。意図的に隠したということはありません。ご理解ください。必要な資料は出していきます。

小片氏

3.11の地震の後、第二幼稚園の卒園式は、園ではできませんでした。第一幼稚園は、卒園式を行いました。軟弱な第二幼稚園です。

山田市長

幼稚園だけでなく小学校も卒業式をできませんでした。全体として大震災のときはどこもできませんでした。

小片氏

第一幼稚園はできたが第二幼稚園は地形の問題などでできなかった。

第二幼稚園副会長

親としては、ここまできるとどちらを休園してもよくなる。最初は半年後に合併すると。時間がなくなからおかしいと思ったが、人数が減っているという理由もありますので。いま凍結してもいずれまた問題となる。第一幼稚園、第二幼稚園も合併について子供たちのためにはしょうがないと納得したうえで来年度から交流会をやっていた。その矢先にこのようなことが起きたので、全然園児たちのことを考えていなくごちゃごちゃにされたという感想です。

第一幼稚園副会長

両園のここがダメとかという話を聞いているだけで、実際通わせている私たちとしてすごく辛いです。子供たちの安全性を考えたら意見が出るのはもちろんだと思ふ。そうではなく私たちは幼児教育の充実や預かり保育の話を進めてもらったうえで、休園の話が出れば納得できる。今は話が進んでいないのにどちらを休園するかという話になっても子供を通わせている親としては、いい方は悪いがどうでもいいという感じになっています。預かり保育の話などいい方向に進めてもらえれば、どこの幼稚園に通うのかはどちらでもいい話です。いい条件で預かり保育ができるのであればと。納得する話が聞きたいです。

齋氏

強く意見を述べた後ですが、私もどちらの園も大好きです。今子育てをしているお母さんたちの前で意見を言っているのは心傷むだろうなという思いで聞いていました。でも一つにするのが事実ならここで、ちゃんと決めないといけないという思いもあります。市当局に対しては、12月広報で配布した資料に対して、周りが盛り上がり4000名の署名が集まりました。それがあってこの会議があったのだと思います。今回の案内状の中に同じ資料が入っていました。市では署名を受け取り今後どうしようとしているのかを次の会議で聞きたいです。一つにするのは必要だと思っています。今後の展望を提示いただきたい。今いる子供たちを大事にしてほしいです。

- 山田市長 冒頭で申し上げましたがこの会は、何かを決定する会ではありません。それぞれの立場から現状の課題や、希望を伺う場です。決定する場ではないのでご理解ください。
- 齋氏 どう受け取っているのかが伝わってこない。署名を提出した際に意見をいっぱい言っただけで回答書を求めましたが、その回答を見ても私は今後どうなるのかが見えてきませんでした。
- 山田市長 私たちは地方自治法やさまざまな法律の中で仕事をしています。それを越えることはできません。行政と教育委員会は別組織です。教育とはその時の市長の考えによって左右されることはよくない。教育の中立性です。教育に関しては政治的力が働いてはいけません。そのために白石市も行政当局と教育委員会とは別れています。当市の幼児教育、学校教育、生涯教育を含めた教育行政全般に対して責任を持っているのが教育委員会です。教育委員さんは議会で選ばれています。教育委員会で決定されることは重く受け止めなければなりません。法律上そうなっています。私がそれにおかしいというものではございません。違いがあることをご理解いただきこの場は皆さんからご意見を伺い、今後教育委員さんが定例教育委員会で本市の教育の在り方など様々な議論をし、結果をいただいています。
- 齋氏 教育委員さんも事務局の方もいるので意見として言わせていただきました。よろしくお願ひいたします。待機児童を持っている知人は幼稚園が午後からも見てもらえるということが分からなかったようです。長期休暇等見てほしいというニーズにぜひ対応していただきたいです。
- 第二幼稚園会長 私には子供が4人います。3番目が発達障害を抱え、4番目も言葉が少し遅く保健師さんに見ていただいています。幼稚園の先生を増やしてきめ細やかに見ていただける状況があればいいなと思っていました。2園が統合すればマンパワーが増える期待もありました。急すぎるという気持ちもありましたが、統合後の預かり保育などのサービスへの期待もありました。統合後どう幼稚園が変わるのか、私たちにとってのメリットなのか知りたい。次回そのような資料をいただきたいです。
- 山田市長 教育長として1園にしてサービスを充実するといった場合、どのような効果、狙いがありますか。
- 半沢教育長 皆さんの幼児教育に対する熱い思いが伝わりました。懸念しているところは、保護者のニーズが変化していることです。幼稚園は学校教育法上の位置付けですが、市民、保護者のニーズにどう答えていくかは課題です。140名定員ですが、仮に1園にしても140名にはならないだろうと予測しています。100名程度の幼稚園を目指したいと考えています。理由は、社会性を構築するという意味で一定規模の中で生活した方がいいと思っています。本市の小中学校は、学力向上のマネジメント事業で県の指定を受けています。小学校6年、中学校3年のデータは昨年公表しています。課題があります。今年度から低学年から学力を調べています。低学年の方が、課題が大きいのかなという認識です。小学校の高学年、中学校に行っても課題はありますが、出発点は小学校ですが、幼児教育を充実させなければならない。幼少から含め12年間の一貫した教育をやる必要があると考えています。延長保育の充実、昼食の提供も考えています。幼稚園教諭の場合は小学校教諭と違い負担は市です。支援員の充実を図りニーズに対応していただける形を考えています。次回は可

能な限り分かりやすく資料として準備したいと思います。

山田市長

2時間が経過しようとしています。本日の会議は終了したいと思います。これで会長の任は解かせていただきます。

小室課長

次回の会議は2月13日（木）午後1時30分から開催したいと思います。閉会にあたり半沢教育長から挨拶を申し上げます。

半沢教育長

長時間にわたり貴重なご意見を賜りありがとうございました。この続きは来月行いたいと思います。出席方よろしく願いいたします。以上で第1回白石市総合教育会議を終了いたします。本日はまことにありがとうございました。